

陸奥湾ヨウジウオ乱婚



陸奥湾に生息するヨウジウオ（遠藤さん提供）

曾我部弘大准教授ら研究グループ



曾我部准教授

複数相手と配偶のシステム

雄の「育児嚢」に雌産卵

陸奥湾のヨウジウオは恋愛が盛ん？ 弘前大学農学生命科学部の曾我部弘大准教授らの研究グループは陸奥湾に生息するヨウジウオが雄 雌ともに複数の相手と配偶する乱婚型の配偶システムを持つことを明らかにした。先行の研究で、中国の斎堂島のヨウジウオの雄は平均4・3匹の雌と配偶していたが、陸奥湾の雄は平均5匹、最大9匹の雌と配偶。9匹はヨウジウオ科魚類の雄の配偶者数として最多で、ヨウジウオのように雄が妊娠する（雄が腹部などで卵を保護する）魚類全体で見ても最多の可能性があるといる。

（今井珠世）

ヨウジウオ科魚類では、雄の腹部などにある「育児嚢」に雌が卵を産み付け、雄がふ化するまで卵を保護するため、雄が「妊娠」すると例えられる。配偶のシステムは一夫一妻から、雄雌ともに複数の相手と配偶する乱婚まで多様だが、このうちヨウジウオは先行の研究で、雄が複数の雌と配偶することが分かっていた。ただ先行研究では雌については調査されておらず、相手が1匹か複数かは分かっていなかった。

曾我部准教授は2018年まで学生として同大学院農学生命科学研究科に在籍していた遠藤超寛さんらの研究グループは、陸奥湾に生息するヨウジウオ33匹（雄13匹、雌20匹）を採取し、マイクロサテライトDNAマーカーを使った親子

判定で配偶システムを調査。その結果、妊娠している雄が最大9匹の雌と

配偶していたことについて、曾我部准教授は「9匹との配偶はあまりに多い。ヨウジウオ科魚類だけでなく、雄が卵を保護する魚類全体で見ても最多で、3〜4匹くらいかなという予想をはるかに超えていた」と陸奥湾のヨウジウオの乱婚に驚いたという。乱婚の理由は、陸奥湾の雄が中国・斎堂島より体が大きく、保護する卵の数も多いことから「1匹の雌だけでは、育児嚢を満たすだけの卵が得られないのでは」と推測。ただ3〜4匹の雌の卵で育児嚢を満たしている雄もあり、なぜ9匹

もの配偶相手を持つのかはさらなる研究が必要だという。ヨウジウオは高緯度の個体ほど体が大型になる例が知られており、緯度に沿って配偶システムが変化している可能性も。現在、曾我部准教授はより広域の個体群を比較する研究に着手しており「いろいろな地域のヨウジウオを調べること、なぜ同じ種でも地域によって配偶システムが異なるのか、体のサイズや水温などの環境条件がどう関係しているのかを明らかにできるのでは」と期待している。

この画像は、当該ページに限って”陸奥新報”の記事利用を許諾したものです。
転載ならびにページへのリンクは固くお断りします。